

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



6月6日のGEN自然と親しむ会では京都御苑のさまざまな樹木の特徴について学んだ。

Contents

- 緑の地球ネットワーク第21回総会報告 P 2
- GEN自然と親しむ会・宇久須合宿報告 P 3
- GEN総会記念講演抄録 P 4～6
- ゆりりん愛護会の植樹祭に参加しよう P 6

2015.7
164

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

緑の地球ネットワーク 第21回総会の報告

6月13日、大阪市立阿倍野市民学習センター講堂にて緑の地球ネットワーク第21回総会が開かれました。

会員479名（団体を含む）のうち、出席数47名、書面による参加148名、委任状提出90名、合計285名で総会が成立しました。

【議事】
2014年度事業報告・決算・監査報告とその承認、2015年度事業計画と予算の提案とその承認、役員改選の提案とその承認がおこなわれました。

新役員については以下のとおりです。

【第18期役員】

○代表 前中久行

○副代表 川島和義／高見邦雄

○会計 川島和義（副代表と兼任）

○事務局長 東川貴子

○世話人 上田信／太田房子／河本公子／浦崎賢太郎／巽良生／永島智子／藤沼潤一／藤原國雄／干場革治／松島清／松永光平／宮崎いずみ／宮本敏幸／向井美香／村松弘一／町田良太／大原一晃／鶴田惇



○顧問 石原忠一／小川眞／桜井尚武／遠田宏

【懇親会】

総会終了後、会場を移動して食事とお酒を交えた懇親会をおこないました。33名が参加し、にぎやかに談笑を楽しみました。

【GENへの寄付は税制上の
優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは大阪市に認定された認定NPO法人です（期限は2019年4月8日まで）。

GENへの寄付は、所得控除あるいは税額控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業（法人）からの寄付金は、一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定NPO法人に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GENの場合寄付金となるのは、緑化基金・運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち1口を超える部分、賛助会費から12,000円を引いた金額です。

また、大阪市民の方は市民税控除を受けることができます。くわしくはGENまでお問い合わせください。



ボーナスカンパのお願い

いつもGENを応援いただきましてありがとうございます。おかげでこれまで途切れることなく大同での緑化協力を続けてくることができました。みなさまのご厚意に感謝申し上げます。大同の緑化協力に加え、今年から新たに東北の海岸林再生事業がスタートします。今後の国内での取り組みにご注目いただくとともに、ご支援もお待ちしております。

■会員拡大にご協力！

緑の地球ネットワーク会費（年額）
一般会員 12,000円
家族会員（同居の家族2人目から）

6,000円

学生会員 3,000円

ジュニア会員（中学生以下）1,000円

団体会員 12,000円

賛助会員 100,000円

※会費は会報購読料を含んでいます。

■会報を購読してください！

GENの活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読してみませんか。年間購読料2,000円。

■運営資金、緑化基金もとむ

金額は自由です。GENへの寄付は、寄付控除の対象となります。現在、運

営資金が不足しています。また、緑化基金、運営資金の別を問わない用途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。
*緑化基金の20%は事務管理費になります。

■絵はがき『黄土高原の花』

8枚組・300円（送料別途。5セット以上送料無料）

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。郵便局で切手等に交換します。

■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでもOK。周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。未使用切手も大歓迎です。

■外国コイン・商品券など回収中

使うあてのない図書券、文具券、各種商品券、外国コインがありましたらお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときにGEN事務所から連絡します。

報告

樹木いろいろ、京都御苑

高田 直俊（前大阪自然環境保全協会会長）

6月6日、GEN自然と親しむ会「京都御苑の自然を観察しよう」をおこない、22名が参加しました。梅雨の晴れ間、自然観察を楽しみました。

10時に地下鉄丸太町に集まった総勢20数人は、南西角の門から入場しました。京都御苑は環境省が管理する「国民公園」で緑地としての面積が約90haあり、京都の地図やGoogle Earthで見ると京都の中心を大きく占めています。同種の国民公園は東京の新宿御苑と皇居外苑があり、いずれも皇室関連の施設でしたと前中代表の説明を受けました。私はこれまで堀の外からは見ていたが、中に入るのは初めてでした。

入って目についたのはクロマツの樹高の高さとサルスベリの大木でした。周りの木も無剪定で大きく育っており、無惨に強剪定されたサルスベリを普段見慣れた目には強い印象でした。梅の

林も無剪定でした。生垣や建物に近いところ以外は無剪定で大きく育てられて全体が大木の公園になっていますが、何百年というような木はあまりなさそうです。

また、里山に普通に見られるかん木・低木の「雑木」はなく、ほとんどは植えた木と思いました。これは立入りを制限する樹林地や芝生地はなく、開放空間を維持するために全面的に草刈りがなされているので雑木が育つ場がないためと思いました。

ドングリ類はカシ類で、シイ類は少なく、落葉のナラ類は見ませんでしたが、一部の里山風に仕立てた植栽区にクヌギとコナラが植えてありました。



クロマツやアカマツの植え足しがなされていましたが、最近植え足したアカマツは写真のように靴下を履いており、前中代表は「接ぎ木かなあ〜」と言っていました。

カシ類の多くはカシノナギクイムシ予防のために幹に網が2m程度の高さまで巻かれていました。現れた樹木の種類を数えましたが、77種類でした。



報告

地域創生の合宿に参加して

吉本 辰男（立教セカンドステージ大学）

5月15日～17日の日程で宇久須合宿がおこなわれました。今回で第7回目となる合宿では、7名が参加しました。

5月15日から2泊3日で西伊豆町地域活性化の合宿に参加してまいりました。

西伊豆町にあるGEN関東ランチ宇久須宿舎を拠点に参加者7名による合宿ではありましたが、私にとっては初めての体験で多くの事を学ばせていただきました。

西伊豆町は人口減、住民の高齢化、空き家・休耕田の増加等過疎化が進んでいる地域で多くの課題を背負っております。



現在町の活性化事業として活動ないしは検討されていることは、黄金崎にある松林の再生、無煙炭化器での炭作り、休耕田を利用したヤーコンの栽培、旧中学校の活用、B級グルメの塩鯉うどんの普及などですが、今回見て回ってまだまだ観光資源は潜在している感じを受けました。

ガラス工芸、珪石鉱山跡、カネサ鯉節製造、マリネレジャー、各地区にある温泉などが私なりに目につきました。訪れる人にこの町の魅力を感じてもらうには、資源に磨きをかけ、PRし、交通アクセスを考え、住民のおもてなしや、町内の整備等住民と行政が手を取り合って進めていく必要があります。

国際ボランティア学生協会やGENの協力といった外部のサポートも受けながら、未来に向けた持続可能な地域づくりをハード、ソフト両面からしていかなければならないと感じました。

国の地方創生総合戦略も始まっております。西伊豆町の取組みがモデルケースとなり、全国に拡大すればこの上ないことです。

東海工業鉱山跡地
緑化プロジェクト
宇久須挿し木合宿を
おこないました

GEN関東ランチ合宿所の持ち主が東海工業です。東海工業が板ガラスの材料の珪石（二酸化ケイ素）を露天掘りで採掘していましたが、その跡地の緑化をしようという話が出ていました。ここの土は強い酸性の青粘土のため、ふつうに植物が育つことはまず考えられません。そこで西伊豆の藤原國雄さんが考えたのがアセビ、シキミです。

この挿し木を作るため、6月19日～21日、西伊豆町の宇久須で合宿がおこなわれました。参加者は少人数だったものの、作業は順調に進み、挿し木作業を終えることができました。次の開催を予定していますので、ご興味のある方はぜひご参加ください。

GEN 総会記念講演抄録

「生きもののたちの記録」～^{ゆりあげ}閑上海岸から^{たかだてやま}高館山まで～
大橋 信彦さん（ゆりりん愛護会会長）

GEN 総会に先立って行なわれた記念講演では、「ゆりりん愛護会」の大橋信彦さんにお話しいただき、49 名が参加しました。震災で壊滅的な被害をうけながらも、地元の海岸林再生のためにご自身が取り組んでおられる活動や、生きもののたちについて丁寧に語ってくださいました。（文責＝編集部）



■ゆりりん愛護会の活動 美しく健康な海岸の再生を願って

^{ゆりあげ}私の住んでいた宮城県名取市閑上は、仙台から南東の方角におよそ 20km、車で 30 分くらいのところで、藩政時代から近海の底引き網漁が盛んな漁港の町でもあります。

「白砂青松」という言葉がありますが、そこの海岸は藩祖政宗公の時代からクロマツを植えてきました。新田の開発、湿地の干拓をさかんにおこない、その田畑を守るための防災林で、見事なクロマツの林がありました。



震災前の閑上海岸

海岸は幅が 200m くらいあり、全国的に見ても砂浜だけでこのほどの幅をもつ海岸はそうないと思っています。水平線まで何の障害物もなく見わたせるのも自慢してよいことでしょう。ここでは海滨植物が季節を追って花を咲かせていました。海滨植物を守るための保護区を作って「名取ハマボウフウの会」というのを立ち上げたのが 2001 年です。海滨植物の保護をする傍ら、

ある時不審火でこの海岸林が一部焼失したのを機に、木を植えて海岸林を復元させなければならないと県に働きかけ、「環境学習林創造モデル事業」という名のもとに、行政と私たち地域と教育機関が連携した事業をスタートさせました。2004 年の春のことです。

地域の子どもたちとマツの苗を植えたり、海岸の環境のことを学ぶ「森の広場」を作ったりしました。すぐ近くには「ゆりりん」という看板を立てました。「ゆりりん」というかわいい名前は、「閑上の海岸林」の頭とお尻を取ったもので、小学 2 年生の男の子が付けてくれました。

ここでは定期的に森の教室が開かれ、長老の昔話を聞いたり、ポックルと名付けたマスコット、そしてゆりりんの旗もできました。青空教室と称して、教室では学べないことを海岸で学ぶ活動も生まれました。地域の人も浜に出て、保育園の子どもたちと一緒に遊んでおりました。

■ 3.11 を乗り越えて 海岸林再生

あの大きな災害が 2011 年にやってまいりました。日和山という小高い丘の上から眺めると、町は瓦礫と化し、海岸にあるはずのものがとんでもないところに流されたりして、見る影もなく

変わりました。海岸のハマボウフウの保護区も無残な状態になったのですが、なぎ倒された海岸林にわずかに生き残ったマツがありました。そのマツカサを白砂青松再生の会の小川眞先生へ送ったところ、伊藤武さんが京都府緑化センターでショウロの菌を共生させて一生懸命育ててくれました。

それが翌年 3 月末に里帰りをし、全国の白砂青松の会のみなさんがやって来て、そのマツ苗を高館地区の圃場に移植しました。現在はスギナとの戦いが続き、いろんな人が参加しています。



2015 年 3 月末におこなわれた植樹祭

一方で国の海岸林再生事業に協力して、マツを植える活動を続けています。2013 年の 5 月、仙台市の荒浜地区に 5 年生のクロマツを 1,000 本植えました。近くの荒浜小学校ではかなりの人が津波にさらわれており、仙台市が震災遺構として残すことに決めたようです。

マツ苗を植えた一角に、去年の秋にショウロが現れました。トリュフのように丸くて硬い、香りの高い美味しいキノコです。昔はたくさん取れており、私たちは親しみを込めて「ショロンコ」と呼んでいました。そのキノコがマツの根本に出てきたのは喜ばしいことです。仮設住宅の高齢者のみなさんが外



ゆりりんの看板の前で子どもたちと



マツ苗を植えた一角に生えたショウロに出るひとつのきっかけになると思っています。

名取市の植松に仮設団地ができ、自治会長さんから海砂の花壇を作りたいという話がありました。仮設に住んでいる、特に高齢者のみなさんは海滨植物やマツ林に出るキノコに思い出があるので、二つ返事で引き受けました。震災から 4 年も過ぎると家にひきこもりがちになるので、自治会長さんも頭を悩ませていたのですが、自らの意思でここに海砂花壇を再生させたのは、その持つ意義は大きいと感じております。

また、生き残ったマツの種子をトレイに蒔いて、子どもたちの環境学習に役立てる活動もスタートさせました。すこし大きくなったマツの苗を別の容器に移して育て、2 年たつとコンテナ苗ができます。3 月末にみなさんに集まっていただき、炭を敷いて、その上にコンテナ苗をおき、土をかぶせる作業をやりました。小学生が播いた種がまた最近発芽しましたので、近々コンテナ容器に移し替える予定です。震災後、地元の学校に入る子どもが少なくなり、1 年生と 2 年生でわずか 9 名です。少子化どころじゃないんですけれども、ゆりりん愛護会としてはその数だからこそ学校と連携できますし、ただのマツ苗ではなく、海岸で生き残ったマツの種を育てていくプロセスを大切にしたいのです。この活動には閑上の小学校の校長先生が深く理解し、協力してくださっています。

■増田川と流域の生きものたち

私も家を流されて、内陸のアパート暮らしをしておりますけれども、その近くを増田川が流れております。名取の市内だけを流れる小さな川ながら、

生態系に富んでいます。震災の年の秋、この川をサケが遡ってくる姿を初めて目にしました。サケは広浦湾から入って来て、上流に遡っていきます。高館の吉田地区というところにかっこの産卵場所があり、かなりの数のサケが産卵します。本能なのかもっと上へ行こうとする動きを見せ、樽水ダムのすぐ下まで遡上してくることが分かりました。

この一帯には地域ごとの生態系が見られて非常におもしろいものがあります。高館山の周辺にはクマゲラ、カモシカ、タヌキなどたくさん生きものがいます。去年私たちのマツの苗畑の近くでレンゲの種まきをしたところ、この春いっせいに花を咲かせてくれました。いま話題の日本ミツバチがこのレンゲ畑に集まってきていることも確認できました。マツだけではなく、いろいろな生きものが助けあって生きているようすがわかるわけです。

また、私自身がこだわりをもっている閑上海岸では、ハマトビムシという海岸の虫が、春先に奇妙な小山を作ります。南から渡ってくるコアジサシがたくさんいて、砂浜に直接卵を産み、子育てをして、秋にヒナたちと南のほうに飛んでいく姿が震災後、新たに見られるようになりました。震災前は砂浜に犬を連れて散歩にくる人がいるので、そういった環境で鳥は産卵できなかったんですけれども、今は犬を連れてくる人もなく、鳥たちは安心して産卵しています。スナガニという砂浜にしか生息しない特殊なカニがいますが、どういうわけか震災の翌年、私たちの浜に帰ってきました。これは健康な海岸のバロメーターになるかもしれないと考え、「コタロウ」という名前までつけて見守っております。



震災後、スナガニが砂浜に戻ってきた



マツの苗もどんどん成長していきまして、そろそろ本来の海岸に返していかなければと思っております。

■自然と共生することの意味

震災後、産業や経済で声を大きくしている方もいます。それが大事ではないとは言いませんが、あの大震災が教えてくれたのは、生きものとの共存という選択肢をきちんと考えてみようということだと思っております。

それと、環境の意識やそれを行動に結びつける手法のひとつとして、いくつか紹介した地域の生きものたち、まぼろしの生きものたちを自分の中に持つ、発見することが有効ではないかと体験を通じて感じています。生まれ育ったところにいたものを、自分の中にきちんととらえていくことが、地域での環境行動を進めていくときに大事なことになるのではないかと思います。

私は東京で何年か過ごしたとき、広告業界にいました。生き馬の目を抜くという言葉どおり、忙しい業界にあって、ともすると自分を見失う局面が何度ありました。そんなとき里帰りして、春の小川という歌を思い出しました。心を痛めているなか、

「春の小川は さらさら行くよ 岸のすみれや れんげの花に すがたやさしく 色うつくしく 咲けよ咲けよと ささやきながら」

という歌詞が浮かんできて、そのことに私は救われました。大きな力を得たと言ってもよいと思います。そのことが退職後も地域の生きものたちと一緒に何かをやっていくということにつながっているのかもしれません。

「ふるさと遺伝子」という言葉をときどき私は使います。都会にいたときに、生まれ育ったところ、名取市の閑上という言葉を目にしたり、映像で紹介されたりすると、なぜか血が騒ぎ、胸が躍ることがありました。人は誰でも自分の生まれたところを離れば離れる

ほど、時間が経てば経つほど、故郷への思いが募ってくる。そのときふるさとの名前を耳にしたり、映像を目にしたりすると、血が騒いだりすると思うんですけど、それは親からもらった遺伝子とは別に、その土地の風や土が運んでくる遺伝子が細胞の中に組み込まれているからではないかと思うのです。それを私は「ふるさと遺伝子」と勝手に呼んでおります。こういう話を中学生の前ですると、かれらは実に真剣な表情で聞いてくれます。「だか

らみんながね、ふるさと遺伝子とはこういうものだとか科学的に証明できたら必ずノーベル賞がもらえるよ」と言うと、彼らは笑わずに真剣な顔で聞いてるので、あとでまずいこと言ったかな、と思ったりするんですけども。
■第二の人生に思うこと
私も古希を過ぎてそれ相応の年齢に達しましたが、自分らしく生きるとはどのようなことなのかと、最近つらつら思います。人はだれにも持ち味というものがあります。私は東京におりまし

たときに自分を見失うような危うい場面があったり、自分が本来持っているやさしさがうまく外に出せない困った状況に何度か立たされ、そのときに生きものたちに随分と救われたのだとつくづく思いました。
自分らしく生きるために、これからあとどのくらいがんばれるかわかりませんが、いずれにしても私はふるさとの土になるんじゃないかと、閑上のマツの砂になるのかなどと思っております。

7月23日締切 黄土高原スタディツアー 参加者募集

今年のスタディツアーは8月22日(土)～28日(金)6泊7日でおこないます。秋風を感じながら植樹に汗を流したり、黄土高原に咲く花ばなの観察を楽しみませんか。いつか参加を、とお考えの方はぜひこの機会にどうぞ。
○訪問地：中国山西省大同市(北京経由)
○参加費：18万円、学生割引3万円あり。(燃油サーチャージ込み。個人でかける旅行保険、GEN年会費別途)
※関西空港発着。全日本空輸(ANA)利用
※東京発着便を希望の方はご相談ください。
○定員：30名(最少催行人数12名)
○参加ご希望の方はまずGENまでご連絡ください。申込み書類等は(株)マイチケットからお送ります。申込み締切日7月23日(木)を過ぎてからの参加希望はGENまでお問合わせください。



● Green なんでも勉強会 ● 中国に治山を～四川大震災緑の復興協力～

2008年、中国で発生した四川大地震では、人や建物への被害だけでなく、森林植生にも多大な影響を与えました。7年が過ぎたいま、現地のようすはどうなっているのでしょうか。
震災後、森林植生復旧計画プロジェクトのメンバーとして活躍し、先日帰国された町田良太さんにお話をうかがいます。

○日時：7月23日(木)18時30分～20時30分
○会場：大阪市総合生涯学習センター 第3研修室(大阪駅前第2ビル5階)
○講師：町田良太さん(元JICA技術協力プロジェクト専門家)
○参加費：700円(学生300円)
○問合せ・申込み：GEN事務局まで

◆ 東北海岸林再生 ゆりりん愛護会の 植樹祭に参加しよう

今回の総会記念講演抄録を読んで東北の海岸林再生に興味をもった方、この機会に宮城県まで足を延ばしてゆりりん愛護会がおこなう植樹祭に参加してみませんか。
○日程：9月12日(土)11時30分仙台空港集合、13日(日)15時ごろ解散
○スケジュール：9月12日 集合後レンタカーで岩沼市へ移動。寺島地区でゆりりん愛護会の復興植樹祭に参加
9月13日 閑上地区を中心に津波被災地を見学、苗畑などで作業
○費用見積り(参加者が決まり次第確定します)：レンタカー代、夕食、宿泊(素泊り)、保険料で1万7千円～1万8千円程度の予定です。現地までの交通費は含みません。マイカーの利用も可能です。
※宿泊は秋保温泉ホテルヴィラ瑞鳳もしくは観橋ペンション。ペンションはツインか4人部屋の相部屋、ホテルはシングルルーム。
○募集人数：24名(先着順)
○申込み締切：8月12日(水)
○問合せ・申込み：GEN事務局へ

● GEN 自然と親しむ会 ● 今後の予定

秋のキノコ観察会
○日程：10月25日(日)
○場所：万博記念公園(吹田市)
無煙炭化器を使った炭焼き
○日程：11月15日(日)
○場所：西宮市武庫川河原(JR福知山線「武田尾」駅付近)
詳細は次号でお伝えします。

西伊豆町黄金崎のマツ ～その後のご報告～

宇久須まちづくり協議会が国際ボランティア学生協会(IVUSA)の学生や地元ボランティアと協力して、静岡県西伊豆町の黄金崎で、台風による潮風で傷んだマツの再生に、昨年、今年と連続して取り組みました。緑の地球ネットワーク(GEN)からも有志がこれに参加しました。
白砂青松再生の会の小川眞会長(GEN顧問)の指導で、弱ったマツの根元の腐葉土を取り除き、溝を掘ってそこに木炭を埋め、キノコの胞子液をかけて、菌根菌との共生を取り戻すことにしたのです。その木炭も間伐材などを材料に無煙炭化器を使って自分たちで焼きました。元気に声をかけあいながら、100人からの学生がきびきびと働くようすに他の参加者も感激しました。
その効果がどう出るか、期待半分不

本の紹介

『オオカミがいないと、なぜウサギが減びるのか』山田健著／集英社インターナショナル／1,300円＋税
サントリー「天然水の森」の企画・研究・整備活動を推進しており、以前GEN総会で記念講演をしていただいた山田健さんの新著です。生態系ピラミッドは絶滅種で歯抜け状態のなか、これからの日本で豊かな生態系を取り戻すため、森で、農地で、都市で、できることは何なのか、その対策を探ります。



助成金が 決まりました

公益社団法人国土緑化推進機構の緑の募金公募事業で「持続可能で多様性のある森林のモデルづくり(中国太行山地区)」として190万円の助成金が決まりました。

安半分て6月中旬に現地を訪れました。びっくりしたのは、枯れそうなほど弱っていたマツが、緑色の元気な若葉を広げていたことです。小川さんの指摘どおり、下のほうの枝から先に改善効果が現れます。写真は昨年春に手当てしたのですが、この春にはさらに数多くのマツを手当てしましたので、来春以降がいつそう楽しみになりました。
GEN会員であり宇久須在住の藤原國雄さんは、しょっちゅう現場を訪れて元気を回復するマツを見ながら、「黄金崎のマツを見ると心がときめきます」とその思いを語っていました。この活動は今後も継続されます。今年はテングダケの胞子液を使いましたが、より共生力の強いアマタケ、チチアワタケ、ヌメリイグチなどマツの根元に生える



○23年の振り返りを興味深く拝読しました。中国が環境問題に責任を持って取り組めるように発展してきたことをうれしく思いました。役員ならびにスタッフのみなさまに感謝します。(T.S)
○残念な日・中・韓関係をなんとか民間交流で好転できるといいのですが。地道な活動に団結して取り組みたいものです。(D.S)
○むずかしい時代ですが、あきらめずに頑張りましょう。西伊豆のプロジェクトは今後が楽しみです。(T.E)
○日中再不戦が一層重要になってきました。草の根の交流がますます大事になっています。みなさんの活動に期待しています。(Y.S／Y.K)
○今年から大学1年生に環境と平和について授業をはじめました。GENで学んだことも授業に生かせればと考えています。(O.A)
○総会資料読ませてもらいました。難しいことはよくわかりませんが、中国の緑化活動の進展に貴NPOの果たされ

キノコの胞子液が必要です。ご協力をお願いします。
菌根菌と木炭によるマツの再生についてはパンフレットとDVDをGENで用意していますので、ご希望の方はご連絡ください。(高見)



元気な若葉を広げる黄金崎のマツ

た役割の大きさを強く感じました。どんな形であれ、活動の継続を希望します。(N.O／N.S)
○24年間の素晴らしい成果は誇るものだと思います。しっかりと次の時代に引き継ぐ知恵を生み出す総会になることを期待しています。(J.Y)
○息子が中国へ渡ってから、もう1年が経とうとしています。写真や感想文集などありがとうございました。受験で精一杯になり、お礼の手紙も書けず申し訳ありませんでした。お陰さまで無事志望校に合格し、高校で頑張っています。またGENで樹を植えに行きたいと語っています。その日を楽しみに、皆さんの活動を九州から応援しています。(H.Y／H.H／H.H／H.Y)
○「環境に国境はない」との標語で23年間大同で緑化協力され、緑濃くなり頭が下がる思いです。これからは困難を乗り越え、続けて下さい。(Y.N)
○事業報告と事業計画を拝見しました。大同の状況は引き続きダイナミックに変化しているようですね。急速な変化の中で、事業の舵取りをされるのは本当に大変なことだと思います。それでも活動の根幹となるものは変えることなく、さらに時代の変化に臨機応変に対応して、新たに活動の幅を広げていかれているのが本当に素晴らしいと感じました。今後も日本国内の地方との連携も模索されるようですので、どのような活動に発展するのか、興味深いです。遠い異国の(次ページへつづく)



自然環境市民大学 1 日体験入学

自然環境市民大学の講座を1コマ体験してみませんか。

○保険料・資料代：300 円

○先着若干名。1 人 2 回まで受講可能

○問合せ・申込み：公益社団法人
大阪自然環境保全協会市民大学係
(〒530-0041 大阪市北区天神橋
1-9-13 ハイム天神橋 202 号室 tel.06-
6242-8720 fax.06-6881-8103 E-mail
: office@nature.or.jp URL http://
www.nature.or.jp)

○対象講座

◇8月5日「ツバメの塹入り」京阪観
月橋付近 (17 時集合)

◇9月12日「野鳥②」南港野鳥園

◇9月30日「金剛山の自然」金剛山

◇10月7日「植物②」泉北・光明池

◇10月14日「昆虫②」明日香・甘樫
の丘

◇11月7日「野生動物との共存」奈良
公園

◇11月18日「淀川の自然回復」淀川
左岸 (樟葉～枚方へ)

◇11月25日「地域の保全活動」富田林・
奥の谷

◇1月20日「保全運動」信太山丘陵

◇2月17日「哺乳類」箕面鉢伏山また
は青貝山

* 当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。
主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。

* 当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月 15 日ごろの発行で、締切は前月の末です。
なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

※受講時間は 10 時～ 15 時 30 分頃 詳
しくは主催者へお問い合わせください。

野の塾 森里湖のつながりと 自然と調和した社会

琵琶湖を愛する嘉田由紀子前滋賀県知事
が実践してきた生活環境主義

滋賀県における人びとと琵琶湖の深
いつながりを学び、持続可能な真の地
方創生の課題について考えます。

○日程：8 月 22 日 (土) 13 時～ 15 時
45 分 (12 時 30 分受付開始)

○会場：東山いきいき市民活動センター
(京阪電鉄「三条」駅、地下鉄・市
バス「三条京阪」駅下車徒歩 5 分)

○プログラム：第一部嘉田由紀子さん
講演 第二部嘉田由紀子さんと枚本
育生さん (環境市民代表) による対
談と対話セッション『生活環境主義
で地域から創る持続可能な社会』

○定員：100 名

○参加費：一般 1,000 円、環境市民会
員 800 円、学生 500 円

○主催・申込み：認定 NPO 法人環境市
民 (〒604-0934 京都市中京区麩屋
町通二条下る尾張町 225 番地第二ふ
や町ビル 405 号室 tel. 075-211-3521
fax. 075-211-3531 e-mail : life@
kankyoshimin.org)

(前ページからつづく) 地より陰なが
ら応援させていただきます。日々ご苦
労も多いかと思いますが、どうか皆さ
まご自愛ください。私も相変わらずパ
リでフランス語と育児に格闘の日々で
す。(A.N)

○昨年ツアーに参加し、会社向けに作
成した「中国植林状況レポート」を会
長にほめてもらいました。仕事ではほ
められたことはありませんでしたので、
驚きました。帰国後の仕事では中国に
行く機会も増え、徐々に充実してきま
した。また何かしらの形で活動に取り
組めたらと思っています。今後ともよ
ろしくお願いします。(M.O)

○ご無沙汰しております。展望なきこ
の時代、日中間の貴重な架け橋として
役割を果たされていると思いますが、
これからの望ましいプログラムを総会
で検討されることを期待します。(O
.A)

○いくつもの困難にぶつかりながら、
事業を継続されていることに敬意を表
します。草の根の交流が一番です。(M
.Y)

○総会の盛会を祈念いたします。23 年
の活動のうえに新たな希望を紡ぎたい
ものです。中国キュウリのタネにはい
つも興味津津、楽しく作らせてもらっ
ています。(N.M)